

# デーヴォ ガイド



**2024.10.14-20**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

## ▶ 14日 月曜

### ホセア

11:1 「イスラエルが幼いころ、わたしは彼を愛し、エジプトからわたしの子を呼び出した。

11:2 彼らは、呼べば呼ぶほどますます離れて行き、もろもろのバアルにいけにえを献げて、刻んだ像に犠牲を供えた。

11:3 このわたしがエフライムに歩くことを教え、彼らを腕に抱いたのだ。しかし、わたしが彼らを癒やしたことを彼らは知らなかった。

11:4 わたしは人間の綱、愛の絆で彼らを引いてきた。わたしは彼らにとってあごの口籠を外す者のようになり、彼らに手を伸ばして食べさせてきた。

11:5 彼はエジプトの地には帰らない。アッシリアが彼の王となる。彼らがわたしに立ち返ることを拒んだからだ。

11:6 剣は、その町々に対して荒れ狂い、かんぬきの取っ手を打ち砕き、彼らのはかりごとのゆえに、町々を食い尽くす。

11:7 わたしの民は頑なにわたしに背いている。いと高き方に呼ばれても、ともにあがめようとはしない。

11:8 エフライムよ。わたしはどうしてあなたを引き渡すことができるだろうか。イスラエルよ。どうしてあなたを見捨てることができるだろうか。どうしてあなたをアデマのように引き渡すことができるだろうか。どうしてあなたをツェボイムのようにすることができるだろうか。わたしの心はわたしのうちで沸き返り、わたしはあわれみで胸が熱くなっている。

11:9 わたしは怒りを燃やして再びエフライムを滅ぼすことはしない。わたしは神であって、



人ではなく、あなたがたのうちにいる聖なる者だ。わたしは町に入ることはしない。

11:10 彼らは【主】の後について行く。主は獅子のようにほえる。まことに主がほえると、子らは西から震えながらやって来る。

11:11 鳥のようにエジプトから、鳩のようにアッシリアの地から、彼らは震えながらやって来る。わたしは彼らを自分たちの家に住ませよう。——【主】のことば。

11:12 わたしは、エフライムの偽りと、イスラエルの家の欺きで囲まれている。しかしユダは、なお神とともに歩み、聖なる方に対して忠実である。」

イスラエルが主から遠ざかるときでも、主は「彼らと呼」んでおられました。また「愛のきずな」で導いてくださいました。それでもイスラエルは主から離れたのです。主の悲しみはそれほどだったでしょうか。

主から離れている信仰者もいますが、私たちはまず主の悲しみを心に思うべきでしょう。

そして主は「どうしてあなたを引き渡すことができようか。…心は…熱くなっている。」と仰せられます。これが神の愛です。この愛を心に受けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 15日 火曜

### ホセア



12:1 エフライムは風を飼い、一日中、東風の後を追う。重ねるのは虚偽と暴行。アッシリアと契約を結び、エジプトに油を送る。

12:2 【主】には、ユダに対して言い分がある。主は、生き方に応じてヤコブを罰し、行いに応じて彼に報いる。

12:3 ヤコブは母の胎で兄のかかをつかみ、その力で神と争った。

12:4 御使いと格闘して勝ったが、泣いてこれに願った。ベテルでは神に出会い、神はそこで彼に語りかけた。

12:5 【主】は万軍の神。その呼び名は【主】。

12:6 あなたは、あなたの神に立ち返り、誠実と公正を守り、絶えずあなたの神を待ち望め。

12:7 商人は手に欺きの秤を持ち、虐げることが好む。

12:8 エフライムは言った。「確かに私は富んでいる。私には力がある。私のすべての勤労の実があれば、私のうちに、罪となる不義は見つからない。」

12:9 「しかしわたしは、エジプトの地にいたときから、あなたの神、【主】である。例祭の日のように、再びあなたを天幕に住ませる。

12:10 わたしは預言者たちに語ってきた。わたしが多くの幻を示し、預言者たちによってたとえを示したのだ。」

12:11 ギルアデは不法そのもの。いや、彼らはむなしなものとなった。ギルガルで雄牛が献げられたが、その祭壇も、畑の畝の石くれの山になる。

12:12 ヤコブはアラムの地に逃げて行き、イスラエルは妻を迎えるために働いた。妻を迎

えるために羊の番をした。

12:13 【主】は一人の預言者によって、イスラエルをエジプトから連れ上り、一人の預言者によって、これを守られた。

12:14 エフライムは主の激しい怒りを引き起こした。彼の主は、その血の責任を彼の上を下し、彼のそしりに報いを返される。

イスラエルは神にではなく、エジプトに守りを求めました。しかしエジプトは主の前には不安定な存在でしかありませんでした。このように人間的なものに頼るのは、不安定なのです。

ヤコブは人間的には目先が利く能力を持っていましたが、それも破綻してしまいました。最後は自分の力を捨てて、主により頼んだのです。私たちもヤコブに倣って、自分の力や分析に頼ることから、主に頼るものになりましょう。特に人を頼ったり恐れることで、偶像と関わっているなら、神様を信じて方向転換しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ▶ 16日 水曜

### ホセア

13:1 「エフライムは震えながら語ったとき、イスラエルの中であがめられた。しかし、バアルのことで咎ある者となって死んだ。

13:2 今、彼らは罪を重ね、自分のために銀で鋳物の像を造り、自分の考えで偶像を造った。これはみな、職人のわざ。彼らはこれについて言う。『人を献げる者たちは、子牛に口づけせよ』と。

13:3 それゆえ、彼らは朝もやのように、朝早く消え去る露のようになる。打ち場から吹き散らされる籾殻のように、また、穴から出る煙のようになる。

13:4 しかしわたしは、エジプトの地にいたときから、あなたの神、【主】である。あなたはわたしのほかに神を知らない。わたしのほかに救う者はいない。

13:5 このわたしは荒野で、干ばつの地であなたを知っていた。

13:6 しかし牧草で満腹したとき、彼らは満ち足り、心は高ぶり、そうしてわたしを忘れた。13:7 わたしは彼らに対して獅子のようになり、豹のように道端で待ち伏せる。

13:8 子を奪われた雌熊のように彼らに襲いかかり、彼らの胸をかき裂いて、その場で雌獅子のように食らう。野の獣は彼らを引き裂く。

13:9 イスラエルよ、あなたは滅ぼされる。あなたの助け手である、わたしに背いたからだ。13:10 では、あなたの王はどこにいるのか。すべての町のうちで、あなたを救う者は。あなたをさばく者たちはどこにいるのか。かつてあなたが『私に王と高官たちを与えよ』と言った者たちは。

13:11 わたしは、怒ってあなたに王を与え、



また憤ってこれを奪い取る。

13:12 エフライムの不義は束ねられ、その罪は蓄えられている。

13:13 子を産む女の激しい痛みが彼のところに来るが、彼は知恵のない子で、時が来ても、母の胎から出て来ない。

13:14 わたしはよみの力から彼らを贖い出し、死から彼らを贖う。死よ、おまえのとげはどこにあるのか。よみよ、おまえの針はどこにあるのか。あわれみはわたしの目から隠されている。

13:15 彼は兄弟たちの中で栄えている。だが、東風が吹いて来て、【主】の息が荒野から立ち上り、水源は涸れ、泉は干上がる。それはすべての尊い器がある宝物倉を略奪する。

13:16 サマリアは咎ある者となる。自分の神に逆らったからだ。彼らは剣に倒れ、幼子たちは八つ裂きにされ、妊婦たちは切り裂かれる。」

本来、主なる神様はイスラエルを守る方です。しかしイスラエルが主に背いたことで、バアルの味方となり、神に敵対するものとなってしまいました。ですから主は「獅子のようになり…引き裂く。」と仰せられるのです。

私たちも同じです。主は「わたしのほかに救うものはいない。」と言われていたのです。イスラエルは「妊婦たちは切り裂かれる。」という恐ろしい目にあいました。主の守りがなくなるとはそういうものです。

ですから主はこの書では、姦淫の妻を赦して愛するホセアのように、イスラエルを一方的に愛する御心を強調なさるのです。その愛は今私たちにも注がれています。この主の愛に応えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 17日 木曜

ホセア



14:1 イスラエルよ。あなたの神、【主】に立ち返れ。あなたは自分の不義につまずいたのだ。

14:2 あなたがたはことばを用意し、【主】に立ち返れ。主に言え。「すべての不義を赦し、良きものを受け入れてください。私たちは唇の果実をささげます。

14:3 アッシリアは私たちを救えません。私たちはもう馬に乗らず、自分たちの手で造った物に『私たちの神』と言いません。みなしごがあわれまれるのは、あなたによってです。」

14:4 「わたしは彼らの背信を癒やし、喜びをもって彼らを愛する。わたしの怒りが彼らから離れ去ったからだ。

14:5 わたしはイスラエルにとって露のようになる。彼はゆりのように花咲き、レバノン杉のように根を張る。

14:6 その若枝は伸び、その輝きはオリーブの木のように、その香りはレバノン杉のようになる。

14:7 その陰に住むものたちは、穀物のように生き返り、ぶどうの木のように芽をふく。その名声はレバノンのぶどう酒のようになる。

14:8 エフライムよ。わたしと偶像との間に、どういう関わりがあるか。わたしが応え、わたしが世話をする。わたしは緑のもみの木のようだ。わたしから、あなたは実を得るのだ。」

14:9 知恵ある者はだれか。その人はこれらのことを悟れ。悟りのある者はだれか。その人はそれらのことをよく知れ。【主】の道は平らだ。正しい者はこれを歩み、背く者はこれ

につまずく。

イスラエルの回復の様子が書かれています。それはイスラエルの悔い改めです。「自分の不義につまずいたと認める必要があるのです。私たちが人生につまずくとき、神様に対して不義がなかったかどうかを省みる必要もあるのです。

「アッシリヤは私たちを救えません」というのが、偶像に従ってきたイスラエルの答えです。つまり偶像がどこから来たかということ、神以外の強国であるアッシリヤを頼りにして、友好関係を持ったところから始まるのです。

私たちが神意外のものを神のように頼って従うところから、心の偶像礼拝が始まるのだと知る必要があります。

それに対して神様は「わたしは彼らの背信をいやし、喜びをもって彼らを愛する。わたしの怒りが彼らから離れ去ったからだ。」と言ってくれます。また続いてイスラエルの繁栄を約束してくださいました。

ここに悔い改めの恵があります。その許しの幸いは悔い改めた者しか分らないような、感謝にあふれたものです。神様の愛の素晴らしさは、赦された者にこそ分るものなのです。悔い改めの習慣を身に着けましょう。赦される恵を日々体験しましょう。また互いに罪を認め合い、赦しと愛を宣言しつつ、神様の愛を流す共同体であり続けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 18日 金曜

### ガラテヤ

1:1 人々から出たのではなく、人間を通してでもなく、イエス・キリストと、キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神によって、使徒とされたパウロと、  
1:2 私とともにいるすべての兄弟たちから、ガラテヤの諸教会へ。

1:3 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにありますように。

1:4 キリストは、今の悪の時代から私たちを救い出すために、私たちの罪のためにご自分を与えてくださいました。私たちの父である神のみこころにしたがったのです。

1:5 この神に、栄光が世々限りなくありますように。アーメン。

1:6 私は驚いています。あなたがたが、キリストの恵みによって自分たちを召してくださった方から、このように急に離れて、ほかの福音に移って行くことに。

1:7 ほかの福音といっても、もう一つ別に福音があるわけではありません。あなたがたを動揺させて、キリストの福音を変えてしまおうとする者たちがいるだけです。

1:8 しかし、私たちがあれ天の御使いであれ、もし私たちがあなたがたに宣べ伝えた福音に反することを、福音として宣べ伝えるなら、そのような者はのろわれるべきです。

1:9 私たちが以前にも言ったように、今もう一度、私は言います。もしだれかが、あなたがたが受けた福音に反する福音をあなたがたに宣べ伝えているなら、そのような者はのろわれるべきです。

1:10 今、私は人々に取り入ろうとしているの



でしょうか。神に取り入ろうとしているのでしょうか。あるいは、人々を喜ばせようと努めているのでしょうか。もし今なお人々を喜ばせようとしているのなら、私はキリストのしもべではありません。

パウロが手紙を書くとき、または誰かと交わりをするときには、自分が誰であるのかをはっきりと自覚していました。すなわち、「人間を通して」ではなく「父なる神」によって使徒となった自分です。

私たちもそれぞれに教会の奉仕、社会的な仕事や立場、家庭や地域の関係が与えられていますが、それらを「人の手」によってやらされたと思っているなら本当の動機が生まれてきません。「父なる神」によって与えられてことを知り、確信と感謝と自信を持っていきましょう。

パウロはその信仰ゆえ主の福音に関しては、強い信念を持っていました。確かに「福音に反することを、あなたがたに宣べ伝えているなら」のろわれるべきです。永遠の命を損なうことになるからです。

教会では寛容や赦しを大切にしますが、それは救いをいい加減にするのとは違います。間違った福音や間違った「御心」にまでも寛容であるなら、それは人を永遠に殺すことになるのです。つまり永遠の命を奪うということです。もちろん人を傷つけることに関しても同じです。

互いに主によって立てられていることを忘れないようにしましょう。また主によって教会が存在していることも覚えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 19日 土曜

### ガラテヤ

1:11 兄弟たち、私はあなたがたに明らかにしておきたいのです。私が宣べ伝えた福音は、人間によるものではありません。

1:12 私はそれを人間から受けたのではなく、また教えられたのでもありません。ただイエス・キリストの啓示によって受けたのです。

1:13 ユダヤ教のうちにあった、かつての私の生き方を、あなたがたはすでに聞いています。私は激しく神の教会を迫害し、それを滅ぼそうとしました。

1:14 また私は、自分の同胞で同じ世代の多くの人に比べ、はるかにユダヤ教に進んでおり、先祖の伝承に人一倍熱心でした。

1:15 しかし、母の胎にあるときから私を選び出し、恵みをもって召してくださった神が、

1:16 異邦人の間に御子の福音を伝えるため、御子を私のうちに啓示することを良しとされたとき、私は血肉に相談することをせず、

1:17 私より先に使徒となった人たちに会うためにエルサレムに上ることもせず、すぐにアラビアに出て行き、再びダマスコに戻りました。

1:18 それから三年後に、私はケファを訪ねてエルサレムに上り、彼のもとに十五日間滞在しました。

1:19 しかし、主の兄弟ヤコブは別として、ほかの使徒たちにはだれにも会いませんでした。

1:20 神の御前で言いますが、私があなたがたに書いていることに偽りはありません。

1:21 それから、私はシリアおよびキリキアの地方に行きました。

1:22 それで私は、キリストにあるユダヤの諸教会には顔を知られることはありませんでし



た。

1:23 ただ、人々は、「以前私たちを迫害した者が、そのとき滅ぼそうとした信仰を今は宣べ伝えている」と聞いて、

1:24 私のことで神をあがめていました。

パウロは主が誉め讃えられるためなら、自分の恥を喜んでさらけ出しました。彼は教会を迫害したのですが、それを隠そうとはしなかったのです。証の後に証し者がほめられたり、同情を受ける光景を見ることがありますが、それは主が中心にある共同体とは言い難いのです。

またパウロは「エルサレムにも上らず、アラビアに出て行き、またダマスコに戻りました。それから三年後に、私はケバをたずね…」と書いています。彼は主から受けた福音、すなわちイエスの十字架による救いを旧約の真理に照らし合わせて熟考していたのです。パウロの福音理解は、体験と理性と歴史と霊性が生きているものです。私たちもそのようにバランスの良い信仰生活をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2:1 それから十四年たって、私はバルナバと一緒に、テトスも連れて、再びエルサレムに上りました。

2:2 私は啓示によって上ったのです。そして、私が今走っていること、また今まで走ってきたことが無駄にならないように、異邦人の間で私が伝えている福音を人々に示しました。おもだった人々には個人的にそうしました。

2:3 しかし、私と一緒にいたテトスでさえ、ギリシア人であったのに、割礼を強いられませんでした。

2:4 忍び込んだ偽兄弟たちがいたのに、強いられるということはありませんでした。彼らは私たちを奴隷にしようとして、キリスト・イエスにあって私たちが持っている自由を狙って、忍び込んでいたのです。

2:5 私たちは、一時も彼らに譲歩したり屈服したりすることはありませんでした。それは、福音の真理があなたがたのもとで保たれるためでした。

2:6 そして、おもだった人々からは——彼らがどれほどの者であっても、私にとって問題ではありません。神は人を分け隔てなさいません——そのおもだった人たちは、私に対して何もつけ加えはしませんでした。

2:7 それどころか、ペテロが割礼を受けている者への福音を委ねられているように、私は割礼を受けていない者への福音を委ねられていることを理解してくれました。

2:8 ペテロに働きかけて、割礼を受けている者への使徒とされた方が、私にも働きかけて、異邦人への使徒としてくださったからです。

2:9 そして、私に与えられたこの恵みを認め、

柱として重んじられているヤコブとケファとヨハネが、私とバルナバに、交わりのしるしとして右手を差し出しました。それは、私たちが異邦人のところに行き、彼らが割礼を受けている人々のところに行くためでした。

2:10 ただ、私たちが貧しい人たちのことを心に留めるようにとのことでしたが、そのことなら私も大いに努めてきました。

イエス様の十字架は全ての人のためであること、そして救いのために十分なものであることは、救いの理解にとって何よりも大切なことです。そうでないと、ある人にとっては十字架以外にも何かが必要になってしまいます。救いのためにお金や善行や修行が必要だとしたら、それはイエス様の十字架を不十分なものとして、引き下げてしまうことになってしまいます。

ここで言われている「割礼を強い」というのもそのように、十字架を不十分とすくことです。パウロはそのような間違った福音を、何としても正したかったのです。

しかしながら、自分だけで独善的に進めようとはしませんでした。すでに「柱として重んじられているヤコブとケパとヨハネ」からの信任と同意を大切にしました。ここにクリスチャンとしての、また働き人としての健全さがあります。そのような者が主の器であることを悟りましょう。また主の使命を果たせることを知りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

